

# 谷口ジロー

## マングアを拓く

### Taniguchi Jirô — Le manga, autrement



2026  
7.11 (SAT) — 8.30 (SUN)

【時間】9:00～17:00 8月8日(土)、9日(日)、22日(土)は20:00まで開館(入館は閉館30分前まで)  
 【休館日】月曜日(ただし、7月20日、8月10日は開館)、7月21日(火)  
 【観覧料】一般1,500円(1,200円) / 学生950円(750円) / 高校生500円(400円) / 小中学生300円(240円)  
※未就学児、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料 ※企画展チケットで当日コレクション展もあわせて観覧可能 ※()は前売、団体価格  
 【主催】谷口ジロー展実行委員会(鳥取県、鳥取県立美術館パートナーズ、日本海テレビ、新日本海新聞社)  
 【協賛】三菱ケミカル株式会社 【企画協力】レインボーパード合同会社 【特別協力】株式会社ふらり

鳥取県立美術館  
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

#### EVENTS 関連イベント

※関連イベントの詳細および最新情報は、展覧会Webサイトをご覧ください。



●**スペシャルトークイベント**  
**ヤマザキマリが語る谷口ジロー／世界が絶賛する「凄み」の正体とは**  
 なぜ谷口作品は海を越え愛されるのか。親交のあったヤマザキマリ氏を招き、その真髄を独自の視点で語っていただきます。  
 【日時】2026年8月22日(土) 17時30分～18時45分  
 【会場】1Fひろま  
 【講師】ヤマザキマリ(漫画家・文筆家・画家)  
 【定員】120名(事前申込制・先着順)  
 【参加費】トークのみチケット 1,000円  
 企画展観覧込チケット 前売料金 2,200円 / 通常料金 2,500円



Photo ノザワヒロミチ

●**トウヤマタケオ演奏会「あの日歩く、この日を暮らす」**  
 谷口ジローの描いた故郷の風景にトウヤマタケオの独創的なピアノが重なり合います。過去と現在を繋ぎ、記憶を揺さぶる特別なひとときへ誘います。  
 【日時】2026年7月18日(土) 19時～  
 【会場】3F企画展示室内  
 【出演】トウヤマタケオ(音楽家)  
 【定員】50名(事前申込制・先着順)  
 【参加費】1,600円 ※企画展観覧も可能



Photo 三田村亮

●**ワークショップ「スクリーントーンってなあに？」**  
 マンガ原稿で使われるスクリーントーンはどんなもの？どんな表現ができるもの？実際にスクリーントーンを素材に絵を完成させてみましょう。  
 【日時】2026年7月20日(月/祝)、8月9日(日)、8月30日(日)  
 各日10時～12時、14時～16時  
 【会場】1Fスタジオ  
 【定員】時間帯ごとに20名程度 ※事前申込不要、参加費無料

●**フォトコレクション「谷口ジローの世界へ」**  
 「遙かな町へ」や「孤独のグルメ」にちなんで、過去の愛しい瞬間や食の喜びを写真に。日常の「大切な一瞬」を捉えた写真をご応募ください。  
 <テーマA> 記憶の風景 ～わたしの遙かな町～  
 <テーマB> 至福のひとつき ～自由で、美味しい、顔～  
 【応募期間】2026年6月16日(火)～8月16日(日)  
 【展示期間】2026年7月11日(土)～8月30日(日)  
 【展示場所】2Fギャラリー ※応募方法など詳細は、展覧会Webサイトをご覧ください。

●**ギャラリートーク** 企画担当者が本展の見どころをお伝えします。  
 【日時】2026年7月11日(土)、25日(土)、8月1日(土)、15日(土)、29日(土)  
 各日14時～  
 【会場】3F企画展示室内 ※事前申込不要、要観覧券

#### ADMISSION FEE 観覧料

一般	学生	高校生	小中学生
1,500(1,200)円	950(750)円	500(400)円	300(240)円

※()内は前売料金・20名以上の団体料金 ※障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料(手帳等証明できるものをご提示ください) ※高校生以上の学生の方は学生証をご提示ください ※企画展チケットで当日コレクション展もあわせてご覧いただけます

#### ONLINE TICKET オンラインチケット

オンラインチケットをご購入いただくと入場がスムーズです。  
<https://artsticker.app/events/124215>  
 2026年5月11日(月)～7月10日(金): 前売料金で購入できます  
 2026年7月11日(土)～8月30日(日): 通常料金  
 ※美術館窓口での当日券販売もございます。



オンラインチケット (ArtSticker)



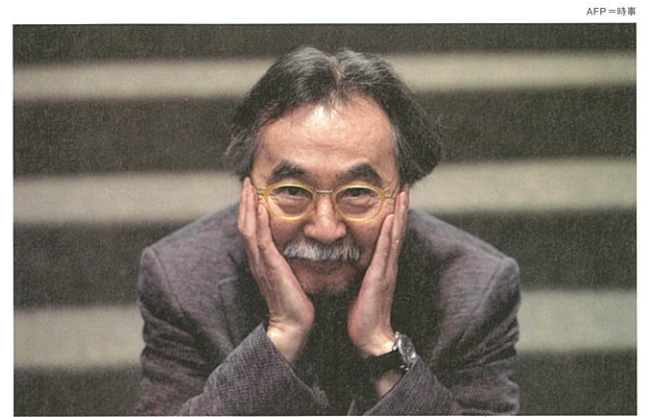
#### ACCESS 交通アクセス

【鉄道・バスの場合】○JR倉吉駅よりバスで約10分、「県立美術館前」下車  
 ■倉吉駅まで ○鳥取砂丘コナン空港からバスで約45分 ○米子鬼太郎空港からJR特急等で約1時間10分 ○大阪駅からJR特急で約3時間 ○岡山駅からJR特急で約2時間40分  
 【車の場合】○岡山・広島方面 米子道 湯原ICから約50分 ○大阪方面 中国自動車道 院庄ICから約1時間 ※駐車場あり(110台)

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町2-3-12  
 TEL 0858-24-5442(代表)  
 X @tottori\_moa @tottori\_moa\_2025 @tottori\_moa  
<https://tottori-moa.jp>



鳥取県立美術館  
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM OF ART



谷口ジロー(1947-2017)／鳥取県出身の漫画家。石川球太のアシスタントを経て、1971年漫画誌デビュー。「事件屋稼業」、「坊っちゃん」の時代(いずれも関川夏央との共作)、「父の唇」、「遙かな町へ」、「神々の山嶺」(原作:夢枕獏)など多様な作品を発表。「孤独のグルメ」(原作:久住昌之)はドラマ化されたことでも知られている。海外で非常に評価が高く、19の言語に翻訳出版され、映画、ドラマ、演劇にも展開されている。1992年「犬を飼う」で第37回小学館漫画賞審査委員特別賞を受賞。他にも手塚治虫文化賞マンガ大賞、アングレーム国際漫画祭最優秀脚本賞や最優秀美術賞なども受賞。2011年にはフランス政府芸術文化勲章シュヴァリエ章を受賞。2017年逝去。2026年秋に映画「遙かな町へ」が公開、ベルギーで回顧展が開催される。2027年にはアメリカでのグループ展に出品予定。

この秋公開! 映画「遙かな町へ」

脚本・監督/錦織良成  
 谷口ジローのマンガを基に制作された映画「遙かな町へ」がこの秋公開されます。3階の特別展示コーナーでメイキング映像をご覧ください!

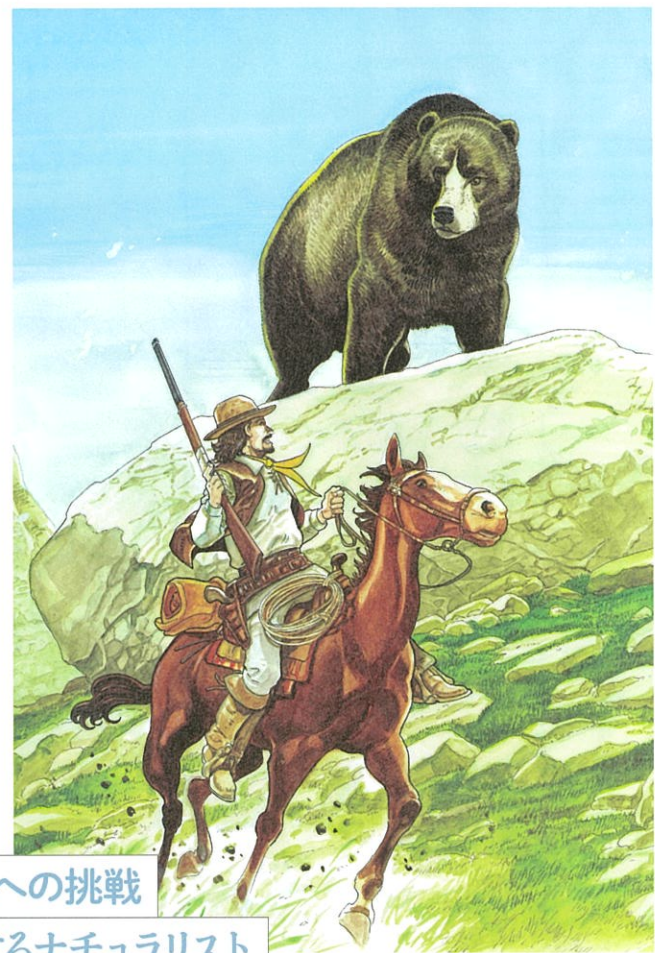
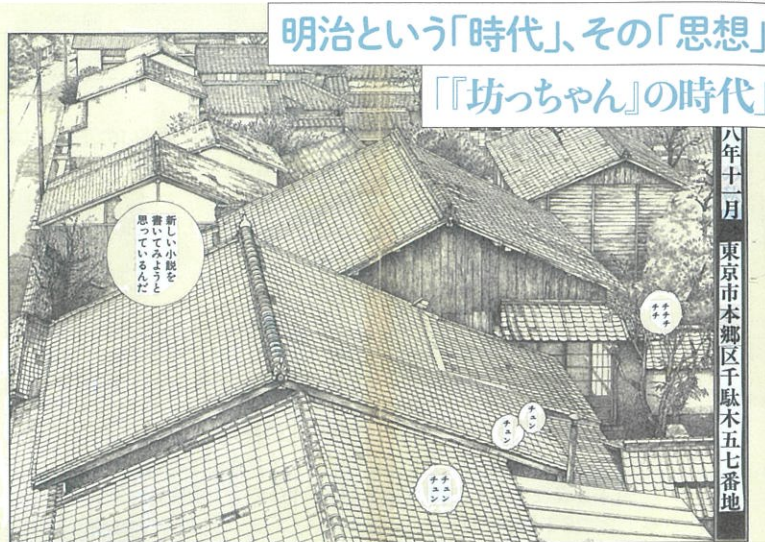
PR  
 映画「遙かな町へ」の応援は鳥取県ふるさと納税で

限定オリジナルグッズやマンガも!!

ここでしか手に入らない限定オリジナルグッズや、谷口ジロー作品を販売します。  
 1Fミュージアムショップへ。



なんでも  
マンガの形式に  
してみたい!



ひとりの男の  
静かな「美味しい」を活写  
「孤独のグルメ」

原作：久住昌之

**POINT 1**  
『孤独のグルメ』は  
入口にすぎない！  
圧倒的なテーマの幅広さを体感し、  
あなたの推し作品、推しの一コマを  
ぜひ見つけてみてください。

愛犬の最期、  
ありのままの命の記録  
「犬を飼う」



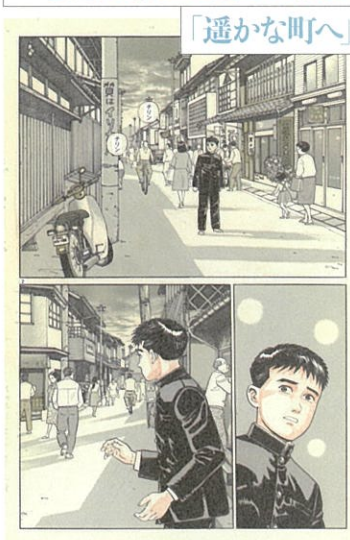
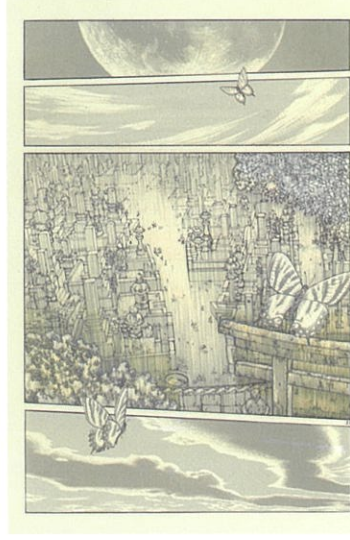
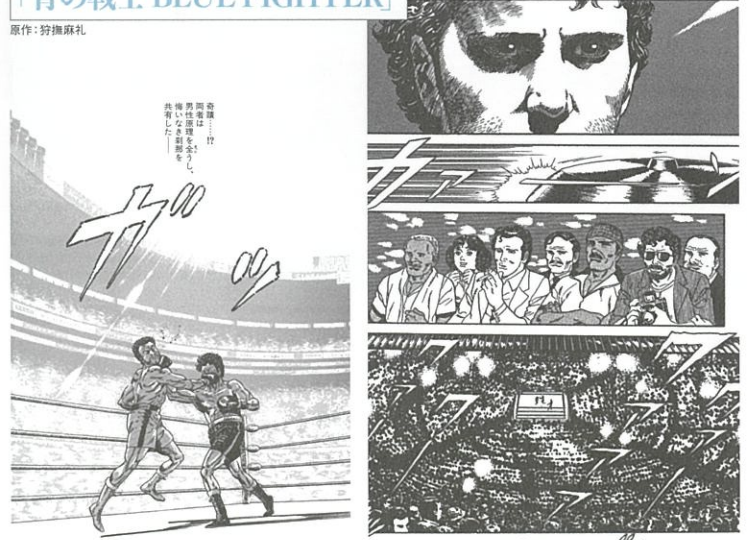
**POINT 2**  
「緻密すぎる」  
一線の集積  
一枚の絵として完成された、至高の描写力。  
背景の一草一木にまで宿るリアリティの世界を、  
貴重な原画で堪能いただけます。

何気ない日々の隙間、  
感情を伝える絵  
「歩くひと」

躍動する野生への挑戦  
「シートン 旅するナチュラリスト  
第4章 タラク山の熊王」

「あの時、ああしていれば」  
— 普遍的願望と再生の物語

ミステリアスで  
セクシーなボクサー  
「青の戦士 BLUE FIGHTER」



極みを目指す、異端にして壮絶な男たち  
「神々の山嶺」



**緻** 密な描線と練り上げられた構成によって、重厚な物語をときに抒情的に、ときに温かなユーモアを交えて描き出し、世界中の読者を魅了し続ける漫画家・谷口ジロー（1947-2017）鳥取県出身。ドラマ化で人気を博した『孤独のグルメ』でその名を知る方も多いでしょう。しかし、彼の真の画業は、ひとつの作品やジャンルの枠には決して収まりきりません。デビューから約50年。谷口が描き出したのは、男たちの信念がぶつかり合う「ハードボイルド」や「格闘」「探偵」もの、厳しい自然に挑む「山岳」ものや「SF」から、野生動物のたくましさやペットとの絆を描いた「動物」の物語まで多岐にわたります。さらには、大河ドラマのような明治時代の思想風景、そして「歩く」「食べる」といった日々の何気ない営みに至るまで、そのテーマの広さは類を見ません。彼は既存のマンガ表現に甘んじることなく、常に新たなテーマに挑み、その表現を模索し、卓越した描写力で読者を物語の世界へと深く没入させてきました。ジャンルの壁を軽やかに越え、マンガの可能性を生涯かけて切り拓き続けた「開拓者」の軌跡。本展にて、時を経て色褪せることのない、谷口ジローの豊潤な創造の世界をぜひ追体験してください。